

2011年度 中央大学共同研究費 ー研究報告書ー

研究代表者	所属機関	理工学部		2011年度助成額
	氏名	鹿島 茂		3,670 (千円)
	NAME			
研究 課題名	和文	大学での環境関連の教育・研究・社会的貢献活動の連携のあり方と成果の公表方法の検討ー中央大学を例にー		研究 期間 2010年度 ～2011年度
	英文			

1. 研究組織

	研究代表者及び研究分担者		役割分担	備考
	氏名	所属機関/部局/職		
1	鹿島 茂	中央大学・理工学部・都市環境学科・教授	研究全体の実施	研究代表者
2	石野 耕也	中央大学・法科大学院・教授	研究成果の検討	研究分担者
3	佐藤 雄也	中央大学・公共政策研究科・教授	環境報告書の作成	研究分担者
4	坂本 将吾	中央大学・理工学部・助教	アンケート調査の実施・分析	研究分担者
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
合計		4 名		

2. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 1000 字程度、英文 100word 程度）

（和文）

<研究目的 1>

環境報告書賞等を受賞した国立大学(三重大学, 島根大学), 環境報告書作成に力を入れている私立大学(芝浦工大)に, 作成の経緯や組織編成, 課題などヒアリング調査をした. 東北大学で電力管理に携わっている方へのヒアリング調査から管理体制や電力計測器に関する情報を得た(メンバー全員で実施).

私立大学の教育・研究活動の連携の実現可能性の調査を, 大学コンソーシアム八王子に加盟している学校の全教員 2667 人を対象にアンケート調査を実施し, 環境報告書の共同発行や環境教育の方法を議論することに対する意見を 364 人から得られた(坂本が実施).

<研究目的 2>

全国の私立大学の環境報告書の発行状況についてアンケート調査を実施した. 599 大学(865 キャンパス)に送付し 330 大学(372 キャンパス)より回答が得られ, 9%程度の私立大学が環境報告書を発行していること, また発行大学の発行体制(発行開始時期, 作成人数, 予算等)も把握できた(鹿島・坂本が実施).

89 校(国立大学 68 校, 公立大学 2 校, 私立大学 19 校)の大学環境報告書を収集し, 記載項目を 25 項目集計し大学環境報告書に関する賞の受賞大学と未受賞大学の違いの分析により環境報告書に記載すべき項目を明らかにした(鹿島・坂本が実施).

企業の環境報告書に対して教育機関である大学の環境報告書の基準モデルを検討した. 読者の違いや教育研究機関であることを踏まえ最低限の要件を考察し, 発行済みの環境報告書がどの程度要件を満たしているかを分析した(鹿島・佐藤・坂本が実施).

環境報告書の作成に必要なデータの収集システムの検討を交通計画研究室の電力について行った. すべての機器について電力を計測することはコスト面から難しいと判断し, 規格電力を用いた推計でどの程度の精度で電力消費量の把握が可能であるかを検討した(鹿島・坂本が実施).

<研究目的 3>

学生・教職員の中央大学が環境報告書作成に対する考え, 作成することが在校生・教職員に与える影響を把握するため, 多摩・後楽園キャンパスで調査を実施し, 学生 254 名, 教員 65 名, 職員 193 名から回答を得た. そして大学環境報告書の認知度, 作成・公表することへの考え, 作成する際の協力の意向, 中央大学への評価などを把握することができた(鹿島・坂本が実施).

<本学の教育活動への研究成果の還元方法>

中大での環境報告書の発行を目標に関係者への直接的働きかけやシンポジウム等を開催する予定(一回目は 2012 年の白門祭での開催を準備中)である. 中大の教職員・学生の考え, 大学コンソーシアム八王子の教員の考え, 私立大学の発行状況や発行体制に関する調査結果を踏まえ, 今後中大での環境報告書発行の必要性やその体制について議論する(2013 年度前期を予定).

また都市環境学科の授業(環境計測実習(仮))で学生に環境報告書を試作してもらう予定である. その際に, 他大学の環境報告書の分析を通じて記載内容について知見や, 電力計測の方法についての経験が活かされると考える.

（英文）

<Research Purpose1>

- Hearing survey to universities which have published environmental report.
- Survey to professor of universities which participate in the consortium of Universities in Hachioji.

<Research Purpose2>

- Survey how university environmental reports have been issued by private university.
- To analyze factors of goodness of University Environmental Reports, we compare items of prized University Environmental Reports with items of not prized ones by using discriminant analysis.
- Development estimation method of electric consumption in Korakuen campus.

<Research Purpose3>

- To find to effect of publication university environmental reports to "demand for environmental protection", "commitment for university environment program" and "evaluation to university" by questionnaire survey about Chuo University.

3. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】 （著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）
坂本将吾、鹿島茂、「大学が発行する環境報告書に記載すべき項目の分析」、環境アセスメント学会誌
(2012年6月投稿、現在査読審査中)
※「大学における電力消費量の効率的な計測体制の検討(仮)」として坂本・鹿島が環境情報科学 or エネルギー資源学会への投稿を 予定している。
※なお佐藤、石野の学術論文や学会発表はないが、研究の進行に際してその都度意見交換を行なっている。
【学会発表】 （発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）
坂本将吾、鹿島茂、「私立大学の環境報告書の発行状況に関する分析」、環境アセスメント学会講演集、2012年度 環境アセスメント学会、福岡大学、2012年9月29日、9月30日
坂本将吾、森遼太郎、鹿島茂、「大学の環境報告書の発行が教職員・学生に与える影響の分析—中央大学を例に—」、 環境アセスメント学会講演集、2012年度環境アセスメント学会、福岡大学、2012年9月29日、9月30日
坂本将吾、鹿島茂、「大学環境報告書の記載項目に関する分析」、環境アセスメント学会講演集、2011年度環境アセ スメント学会、東京工業大学、2011年9月30日、10月1日
坂本将吾、鹿島茂、「大学環境報告書の分析」、環境アセスメント学会講演集、2010年度環境アセスメント学会、 名古屋大学、2010年9月18日、9月19日
【図 書】 （著者名、出版社名、書名、刊行年）
【その他】 （知的財産権、ニュースリリース等）